

出生時刻の補正

四柱推命によって命運を論じるには、生年月日だけでなく、出生時刻も正確に分かつている必要がある。出生時刻が不明のまま、年・月・日の3柱のみで命運を論じることは不可能である。日本では出生時刻が不明であってもかまわないという、四柱推命ならぬ三柱推命を多く見かける。生まれた時刻までは記憶していない人が多いので、一人でも多くお客を獲得するためにそうした方法が採られているのであろう。年月日時の四つのうち三つがわかっているならば、75%の精度があると考えられる方もいらっしゃるかも知れないが、それはまったくの誤りである。たとえば、4本電池が必要なのに、三柱推命では3本しか電池がない状態で話を始めようとしているのである。

本場の中国や台湾にも怪しげな四柱推命はあるが、それでも三柱推命などというものはないようである。日本には四柱推命の専門家の中にも「生まれた時刻はわからなくても大丈夫です」と言っ、三柱推命で人の命運を見ている方がいる。まったく手の施しようがない現象である。

では生まれた時刻が不明の場合、四柱推命で見ることができないかという、まったく方法がないわけでもない。そうした方の場合、少々手間はかかるが、その人の現在と過去に起こった事柄をもとにして、出生時刻を推定することになる。

さて、日本では昭和14年頃から発行されている母子健康手帳に出生時刻を記入する欄があるため、出生時間が不明であることは大変少なくなつて

いる。また、最近では時計が5分も10分も狂っていることはほとんどなくなり、母子健康手帳に記されている出生時刻も信用が置ける場合が多くなっている。しかし、医師、あるいは助産師の方が母子健康手帳に出生時刻を記入する際に見る時計は、日本中央標準時を示すものであつて、太陽の位置によって定められる真太陽時を示していない。四柱八字は太陽の位置によって定められる「真太陽時」をもとにして出さなければならないので、四柱八字を出す際、時計が示す時刻と真太陽時とのズレを補正する必要がある。

こうしたズレの補正が必要になったのは近代になって標準時が採用されたためで、それ以前の太陽そのものや日時計を見て時刻を定めていた時代にはまったく必要ではなかった。中国でこの点が考慮されるようになったのは近年のことで、20世紀中期に活躍した台湾の呉俊民^{ごしゅんみん}氏の著書『命理新論』が、この標準時と真太陽時の差について触れた最古の書であろうと思われる。

以下略